内水ハザードマップのご利用について

このハザードマップは、豪雨などにより浸水災害の発生（内水氾濫）の危険性が生じた場合に、特に注意すべき浸水想定区域、避難のための施設などをとりまとめたものです。自宅の最寄りの指定避難所はどこか？ 問い合わせ先はどこか？ などを確認の上、わかりやすいところに保存、または掲示してください。

みなさんが浸水被害について関心を持ち、いざというときに落ち着いて行動できるよう、日頃から災害に際しての正しい心構えを身につけておくことが大切です。

■浸水想定区域・浸水深について

このマップでは、大雨によって増水し内水氾濫が発生したとき、みなさんのお住まいがどの程度浸水するおそれがあるか、想定される浸水の状況（浸水想定区域および浸水深）を掲載しています。

■想定条件について

1時間に147mmの想定最大規模降雨が、河川の水位がとても高い時に降った場合を想定しています。堤防決壊や越流が発生した場合を想定した「土砂災害・洪水ハザードマップ」も別途公表していますので、あわせてご確認ください。

このマップの見方・使い方

①浸水する深さと範囲が表示されていますので、あなたのお住まいが、避難行動や減災行動（貴重品を２階以上に上げるなど）が必要な地域であるかをご確認ください。

②指定避難所や避難行動に関わる情報も記載しています。避難時や事前の準備にお役立てください。

③市から避難情報が発令された場合には、あらかじめ決めておいた指定避難所にすみやかに避難してください。

※実際に避難を決断し実行するのはご自身です。必要な情報を的確に収集して、安全な避難行動や減災行動を行ってください。

※ご使用上の注意事項

①道路側溝や水路が増水し、溢水した場合に想定される最大の深さと範囲をシミュレーションと浸水実績を基に示していますので、実際にはマップに示した範囲がすべて同時に浸水することはありません。

②河川の増水状況や雨の降り方、土地利用の形態変化などにより、マップに表示した範囲以外でも浸水することがあります。

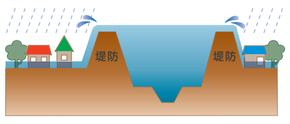
③対象としていない小河川や水路が溢れることも考えられます。そのような点も考慮して避難ルート、指定避難所をあらかじめ選んでおきましょう。

雨・水害に関する知識

外水氾濫・内水氾濫

堤防で守られた内側の土地にある水を内水と呼び、河川の水を外水と呼びます。

■外水氾濫

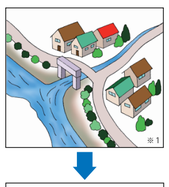


台風や大雨で河川の水位が上昇し、堤防の高さを越えて溢れ出したり、激しい流れにより堤防が決壊して水が流れ込みます。

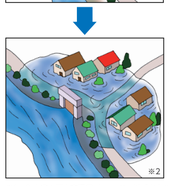
■内水氾濫

台風や大雨で河川の水位が上昇し、降った雨水を河川へ排水しきれなくなって、道路側溝や水路などから水が溢れ出します。溢れた水は地上にたまったままになる場合があります。

水害発生メカニズム（内水）



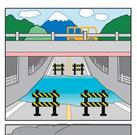
街などに降った雨は、道路側溝や水路などを通って川に排水されます。



大雨が降ると川の水位が上がり、排水されにくくなり、道路側溝や水路などが溢れてしまいます。

※1・2 出典：国土交通省 ホームページ「水害ハザードマップ作成の手引き - 水害ハザードマップイラスト集」より

注意が必要な場所



アンダーパス

くぼ地

道路冠水の恐れがあるアンダーパスや、周辺の水がたまりやすいくぼ地は水害発生時、特に注意が必要です。

雨の降り方と強さの目安

1時間雨量（mm）	雨の強さ（予報用語）	人の受けるイメージ	人への影響	屋内（木造住宅を想定）	屋外の様子	車に乗っていて
10～20	やや強い雨	ザーザーと降る。	地面からの跳ね返りで足元がぬれる。	雨の音で話し声が良く聞き取れない。	地面一面に水たまりができる。	
20～30	強い雨	どしゃ降り。	傘をさしていてもぬれる。	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく。		ワイパーを速くしても見づらい。
30～50	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。			道路が川のようになる。	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる。（ハイドロプレーニング現象）
50～80	非常に激しい雨	滝のように降る。（ゴーゴーと降り続く）	傘は全く役に立たなくなる。		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	車の運転は危険。
80～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。				

※出典：気象庁ホームページ リーフレット「雨と風（雨と風の階級表）・雨の強さと降り方」より

（平成12年8月作成）（平成14年1月一部改正）（平成29年3月一部改正）（平成29年9月一部改正）

（注1）大雨によって災害が起こるおそれのあるときは大雨注意報や洪水注意報を、重大な災害が起こるおそれのあるときは大雨警報や洪水警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは大雨特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

（注2）数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測・解析したときには記録的短時間大雨情報を発表します。この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。なお、情報の基準は地域によって異なります。

警戒レベルと避難行動

主な防災情報

■防災気象情報（気象庁発表）

災害に結びつくような激しい現象が予想される数日前から早期注意情報を発表し、その後の危険度の高まりに応じて「注意報」「警報」「特別警報」を段階的に発表しています。

■避難情報（藤枝市発令）

防災気象情報、河川水位等を踏まえ、生命、財産などに被害が発生する恐れのある地域の住民に対して、危険度の高まりに応じて避難を呼びかける「高齢者等避難」「避難指示」を警戒レベルとあわせて発令します。

警戒レベルと住民がとるべき行動

	警戒レベル	住民がとるべき行動	避難情報等
高	警戒レベル5	すでに災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	緊急安全確保※1 ※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、必ず発令される情報ではない（市町村が発令）
	＜警戒レベル４までに必ず避難！＞	【警戒レベル３】や【警戒レベル４】で、地域の皆さんで声をかけあって、安全・確実に避難しましょう。	
	警戒レベル4 全員避難	すみやかに避難先へ避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難指示※2 ※2 これまでの避難動作のタイミングで発令される（市町村が発令）
	警戒レベル3 高齢者等は避難	避難に時間を要する人（ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等）とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難※3 ※3 高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難（市町村が発令）
	警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	洪水注意報 大雨注意報等（気象庁が発表）
低	警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報（気象庁が発表）
避難行動	水平避難（立ち退き避難）	指定避難所や安全な場所、近隣の高い場所へ移動すること 安全なルートを選び、足元に十分注意して避難しましょう	
	垂直避難（屋内安全確保）	建物の２階以上など、より高い場所へ避難すること 屋外への避難が危険な場合に行いましょう	

災害発生の危険度

状況に応じた避難行動

大雨

警報・注意報等の種類		説明
大雨	注意報	大雨による土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想されたときに発表されます。
	警報	大雨による重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想されたときに発表されます。
	特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合に発表されます。
高齢者等避難		避難に時間を要する人とその支援者は避難を開始します。
避難指示		すみやかに避難先に避難します。

※外への避難が危険な場合は、自宅の２階以上に行き、崖や斜面と反対側の部屋に避難しましょう。
※斜面から物音がする、地面に亀裂等が生じるなど普段と違うことが起きると土砂災害発生の可能性があります。このような前兆が発生した場合は、早めの避難行動を行いましょう。

自宅の周辺は浸水想定がありますか？

- いいえ → **避難は必要なし** 想定外の事態に備えて注意してください。不安な方は、安全な場所に自主避難してください。
- はい ↓

最大浸水深は？ / お住まいの階は？

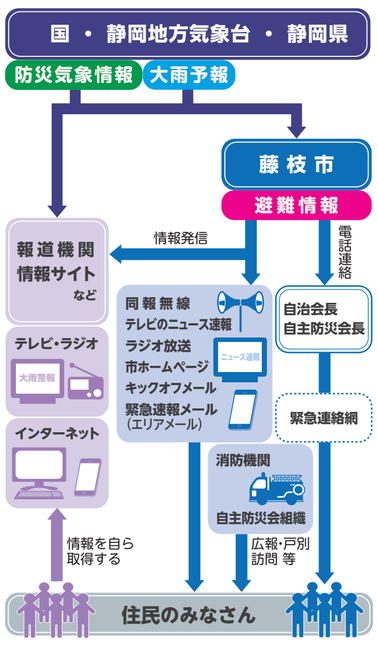
- 5.0m：4階以上・3階以下 → **避難の必要性あり** 市からの避難情報により避難行動をしてください。また、避難情報が発令されていなくても、危険を感じたら早めの避難行動を行いましょう。
- 3.0m：頑丈な建物の3階以上・2階以下 → 避難の必要性あり
- 0.5m：頑丈な建物の2階以上・1階 → **避難は必要なし** 浸水の影響のない自宅の上階に避難してください。不安な方は、安全な場所に自主避難してください。

※頑丈な建物とは、氾濫流が衝突しても壊れない建物（鉄筋・コンクリート造など）

防災情報の伝達方法

住民のみなさんへの情報の伝達

防災気象情報や避難情報は、下図のような経路で住民のみなさんに伝達されます。災害発生の危険が迫ったとき、正しい情報に基づいて適切に行動しましょう。



静岡地方気象台 検索
天気予報や気象警報・注意報、台風情報や、洪水予報や土砂災害警戒情報などの災害情報を確認可能

SIPOS-RADAR 検索
静岡県土木総合防災情報。最新の河川情報、防災情報、気象情報を確認可能

藤枝市水位・雨量観測システム 検索
市内10か所（水位計８基、雨量計２基）に設置した計測器からの情報データを２４時間確認可能

川の防災情報 検索
国土交通省が提供する、全国各地の雨量や河川の水位、洪水予報発表状況などさまざまな防災情報を確認可能

緊急速報メール（エリアメール）
気象庁や国・地方公共団体が配信する災害・避難情報を、特定エリアへ一斉配信します

メール配信サービス「キックオフメール」

キックオフメールに登録すると、防災情報のほか、同報無線の放送内容、市からのお知らせ・イベント情報など、役立つ情報を受け取ることができます。災害などに備えて登録しておきましょう。

キックオフメールで配信する情報

大分類	中分類	配信内容	配信時間
防災情報	地震情報	・市内で震度４以上の地震が発生した場合 ・「南海トラフ地震臨時情報」が発表された場合 ※緊急地震速報ではありません。	24時間 365日
	気象情報	・市内に大雨・洪水・暴風の各警報や特別警報、土砂災害警戒情報が発表・解除された場合 ・県内に記録的短時間大雨情報が発表・解除された場合	
	緊急災害情報	・市が避難勧告などの避難情報を発令した場合	
同報無線放送内容	—	・同報無線で市内全域を対象に放送した場合	午前7時～午後9時
火災情報	—	・市内で火災が発生した場合	24時間 365日
お知らせ・イベント情報	お知らせ・イベント・募集	・市内でイベントなどが予定されている場合	午前7時30分～午後5時30分

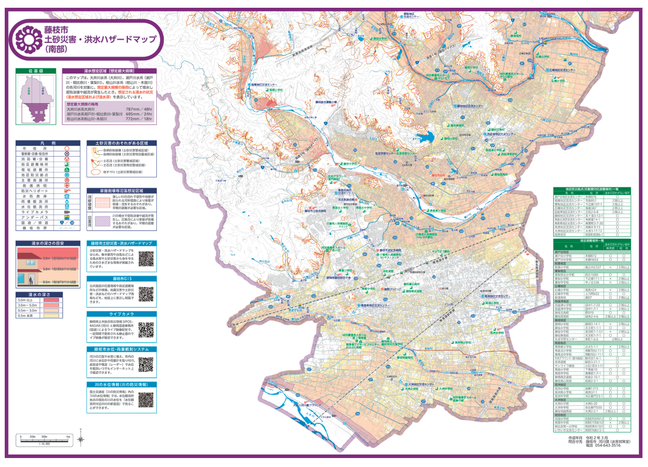
キックオフメール利用者登録
藤枝市のホームページからキックオフメールの利用者登録を行ってください。ＱＲコードの読み取り機能が付いている携帯電話やスマートフォンをご利用の場合は、右のＱＲコードをご利用ください。
藤枝市キックオフメール 検索

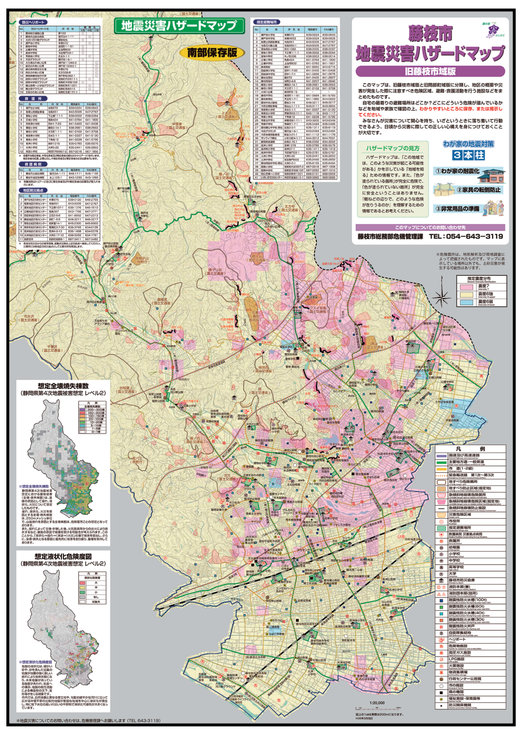
その他の情報入手先

情報の種類	名称	運営	電話番号／アドレス
同報無線放送内容	同報無線テレホンサービス	藤枝市	TEL. 0120-175040（フリーダイヤル） 054-646-5040（通常回線）
避難・総合防災	静岡県防災ポータル	静岡県	https://shizuoka.secure.force.com/portal/sns_vf_Portal
土砂災害（特別）警戒区域 等	静岡県地理情報システム		https://www.gis.pref.shizuoka.jp/
土砂災害	土砂災害の危険度分布	気象庁	https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/
水位・雨量	あなたの天気・防災	NHK（データ放送）	https://www.nhk.or.jp/kishou-saigai/city/weather/22214002221400/

他のハザードマップに関する情報

ハザードマップの種類と入手先





■土砂災害・洪水、地震災害ハザードマップ

藤枝市ではその他に「土砂災害・洪水ハザードマップ」と「地震災害ハザードマップ」を作成しています。「内水ハザードマップ」とあわせて災害リスクを確認しましょう。

土砂災害・洪水ハザードマップ（上図）
・土砂災害の注意が必要な区域など
・堤防からの越水や堤防決壊による浸水想定区域など
藤枝市　土砂災害・洪水ハザードマップ 検索

地震災害ハザードマップ（右図）
・推定震度、液状化、全壊、焼失の想定区域など
藤枝市　地震災害ハザードマップ 検索

非常持出品・備蓄品の準備

非常持出品

防災用品
- □ 持出用リュック
- □ 軍手・厚手の手袋
- □ 携帯電話・充電器
- □ 懐中電灯
- □ 携帯ラジオ
- □ 予備の乾電池
- □ ライター・マッチ
- □ ナイフ・缶切り
- □ ポリ袋
- □ レジャーシート

飲料水・非常食
- □ 飲料水
- □ 非常食（乾パン、缶詰など）

着替え・防寒着
- □ 雨具
- □ 上着・防寒着
- □ 下着・靴下

医療品
- □ 常備薬
- □ 絆創膏・包帯
- □ おくすり手帳

衛生用品
- □ 携帯トイレ
- □ ウェットティッシュ

貴重品
- □ 現金（紙幣・硬貨）
- □ 印鑑
- □ 預金通帳・証券類

身分証
- □ 健康保険証
- □ 運転免許証
- □ 障害者手帳

家族構成等により必要になるもの

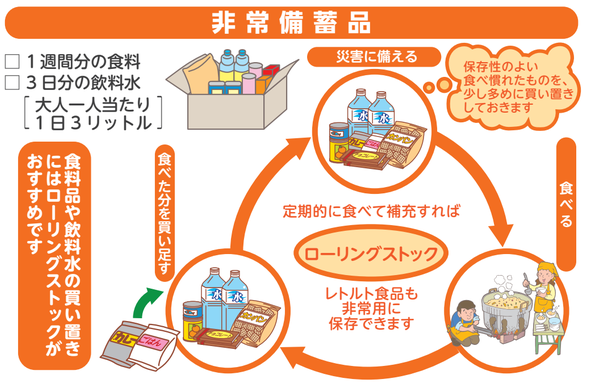
女性用品
- □ 生理用品
- □ 化粧品
- □ 鏡

赤ちゃん用品
- □ 粉ミルク
- □ 哺乳瓶
- □ 離乳食
- □ 紙おむつ
- □ 洗浄綿・ガーゼ
- □ 母子手帳

高齢者用品
- □ 看護用品
- □ 持病薬
- □ 高齢者手帳

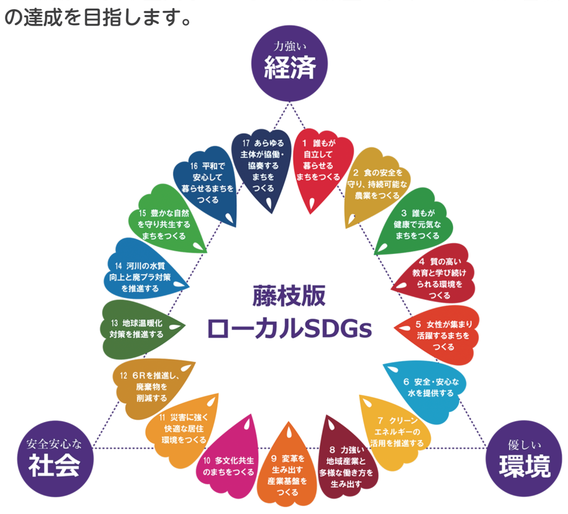
非常備蓄品

- □ １週間分の食料
- □ ３日分の飲料水
  ［大人一人当たり１日３リットル］



藤枝版ローカルSDGｓ

ＳＤＧｓの実現に寄与するため、第６次総合計画の推進により藤枝市として取り組むべき目標を、ＳＤＧｓの 17 のゴールに貢献する「市独自の 17 の目標（藤枝版ローカルＳＤＧｓ）」として設定。市民や企業などともに地方創生の歩みと一体的に目標その達成を目指します。



「藤枝市内水ハザードマップ」は、SDGs に貢献しています。

- 11 災害に強く快適な居住環境をつくる
- 13 地球温暖化対策を推進する
- 17 あらゆる主体が協働・協奏するまちをつくる

日頃からの備え

■内水ハザードマップを活用する

最新のハザードマップで、自宅付近で浸水が発生するリスク、指定避難所の位置などを確認しておきましょう。

■指定避難所・避難ルートの確認

自宅や、勤務先や学校などよく行く場所からの指定避難所と、危険な箇所を通らない避難ルートを確認しておきましょう。

■家族でよく話し合っておきましょう

連絡先や連絡方法、離ればなれになった時の集合場所やそれぞれの役割など、非常時に備えて、あらかじめ家族でよく話し合って決めておきましょう。

■気象情報・防災情報を確認しましょう

日頃からテレビやラジオ、インターネットなどで気象情報や防災情報を確認して、気象の変化に注意する習慣を身につけておきましょう。

■緊急速報メールや伝言ダイヤルの利用

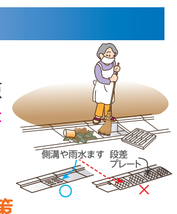
携帯電話の緊急速報メールの受信設定をオンにしておきましょう。また、いざという時のために災害用伝言ダイヤル「１７１」の使い方も覚えておきましょう。

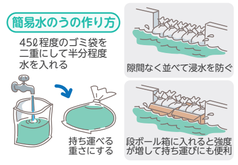
■非常備蓄品と非常持出品の準備

１週間分を目安に食料品や水などを備蓄しましょう。持出品の重さは成人男性 15 kg、成人女性 10 kg 程度が目安と言われていますが、個々の事情に合わせて必要なものを準備しておきましょう。

■側溝や雨水ますの清掃をしましょう

側溝や雨水ますが詰まると、道路冠水や浸水の原因になります。側溝や雨水ますの上には物を置かないようにして、こまめな清掃を心がけましょう。





■浸水への事前対策

簡易水のうを活用して家屋への浸水被害を軽減することができます。また、簡易水のうをトイレや風呂場、洗濯機の排水口の上に置いておくと、下水の逆流が防げます。

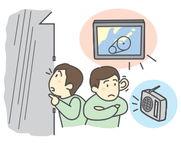
■強風への事前対策

強風に備えて事前に対策しておきましょう。
①ベランダの物干しざおや鉢植えを片付ける
②窓ガラスの飛散防止のために、雨戸を閉める、ガラスに養生テープを張る、厚手のカーテンをする、など
③TV アンテナ、トタンや瓦など、屋根に不具合があれば修理しておく
④自転車や鉢植え、屋外看板などを取り込んでおく

■避難行動要支援者登録台帳に登録しましょう

市では、避難行動要支援者の避難を支援するため、家族など世帯の状況がわかる世帯台帳とあわせて、避難行動要支援者の登録台帳を整備しています。災害時の避難に支援が必要な方は、避難行動要支援者登録台帳に登録しましょう。

避難時の注意点



■正確な情報収集で早めの行動を

気象情報や洪水予報などに注意して、避難情報が出ていなくても危険を感じたら、自主的に早めに行動しましょう。また、夜間は危険が高まるので、なるべく明るいうちに避難しましょう。

■電気・ガス、戸締りの確認

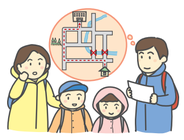
避難する前に、電気のブレーカー、ガスの元栓が閉まっているかを確認し、戻ってくる家族がいる場合は連絡メモを玄関などに残していきましょう。

■要配慮者の避難に協力

災害が発生しそうなとき、高齢者等の要配慮者は早めの避難が必要です（警戒レベル３）。近所のお年寄りや病気の人などの避難に協力しましょう。

■動きやすい服装で、二人以上で避難

避難するときは、動きやすい服装で、なるべく複数人で行動しましょう。ひもで結んだり手をつないだりして、子どもからは目を離さないようにしましょう。



■川・水路の近くを通らない

河川や水路が増水した場合、水の流れが速く、橋が流されたり越水したりして非常に危険です。指定避難所までのルートは、できるだけ河川や水路から離れた高い道路を通りましょう。

■冠水した道はなるべく通らない

ひざ下（50cm）以上の水深では安全に移動することはできません。やむをえず移動する場合は、棒などで地面を探りながら、側溝やマンホールに注意して通行しましょう。

■車での避難は控える

車での避難は、浸水して危険な場合があり、緊急車両の通行の妨げにもなるので、特別な理由がある場合を除いて控えましょう。

■逃げ遅れたら無理に避難しない

浸水が始まってからの避難は危険なので、無理に指定避難所へ向かわず、近くの頑丈な建物や自宅の２階以上など、がけや斜面から離れたより安全な部屋に移動しましょう。

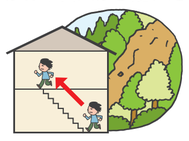
避難行動		
	水平避難（立ち退き避難）	指定避難所や安全な場所、近隣の高い場所へ移動すること 安全なルートを選び、足元に十分注意して避難しましょう
	垂直避難（屋内安全確保）	建物の２階以上など、より高い場所へ避難すること 屋外への避難が危険な場合に行いましょう

■土砂災害から避難する場合の注意点

◎土砂災害（特別）警戒区域や、土砂災害の危険がある箇所（山やがけ、斜面など）からすみやかに離れましょう。

◎土石流の場合は、土砂が流れる方向に対して直角に避難しましょう。

◎周囲の状況を確認して、できるだけがけのそばなどの危険な箇所や浸水箇所を通らないルートを選んで避難しましょう。

◎指定避難所への移動が困難な場合は、近隣の頑丈な建物の２階以上や、がけや斜面から離れたより安全なフロアに移動しましょう。

◎屋外への避難が困難な場合は、今いる家屋のがけや斜面とは反対側の２階以上の部屋に移動しましょう。